

(8) 具同小学校

学 校 長 中平 泰史

校内研究代表者 浅井 柚衣

1. 研究主題

「自ら考え、動く子どもの育成～ちがいを認め、共に高め合える学級集団づくりを通して～」

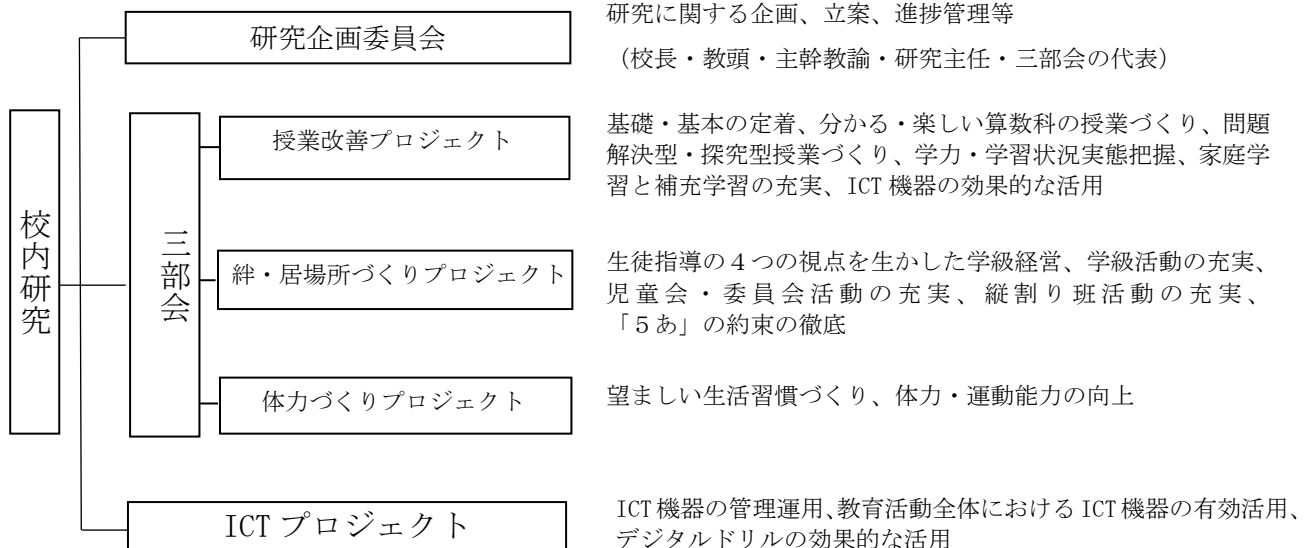
2. 主題設定の理由

本校は西部管内小学校で最も児童数・教職員数が多い学校である。児童の実態からすると、家庭的な背景を抱える児童や発達障害等の特性から特別な支援が必要な児童が多く在籍しており、生徒指導や特別支援教育等に力点を置く必要がある学校である。一方、教職員の実態からすると、本年度も新規採用教員が2名配置され、採用10年以下の教員が約半数を占めており、若年教員の育成も必要な学校でもある。

本校は昨年度より「夢・志を育む学級運営のための実践研究事業」を受託し、学校・学級生活をよりよくするために児童自らが司会役を務めて話し合い、合意形成をして活動する学級活動(1)等の特別活動に全学級で取り組んできた。これまでの研究実践をベースに、教職員が学級経営や授業づくり等について話し合いながら、組織として統一感を持って生徒指導の4つの視点(①自己存在感の感受、②共感的な人間関係の育成、③自己決定の場の提供、④安全・安心な風土の醸成)を生かした授業づくりや特別活動の実践等を行ってきた。学級活動の授業では、相手を意識した議題を設定し、提案理由に沿って話し合うことで、何のために話し合っているのか、それをする中でどうなりたいのかを意識し、イメージしながら話し合う姿が見られるようになってきている。さらに、指標としたアンケート項目「あなたは、授業中に自分の思いや考えを安心して言えますか」については、強肯定評価は44.3%と成果が見られた一方で、全体での発表者がまだ固定化しており、相手意識や目的意識を持った聞き方ができていない児童も依然として見られる。また、昨年度は落ち着きのない学級も見られ、安全・安心な学級経営や学力面についても課題が見られた。今年度は学級経営の見直しを行い、子ども同士がちがいを認め、共に高め合える学級集団づくりをしていくことが必要であると考え、上記の研究主題を設定した。

3. 研究の進め方と方法

(1) 研究体制



(2) 研究内容

①資質・能力ベースの授業づくり…授業改善

これまでの研究実践をベースに、教職員が授業づくり等について話し合いながら組織として統一感をもって取り組む。算数科を中心に、児童の思考の流れや問いを意識した授業に取り組んでいく。

②児童主体の学級・学校づくり…絆・居場所づくり

児童が自己存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、自己指導能力を高めていくことができるよう、特別活動の充実を目指し、子どもたちが主体的に活動できる場を設定する。「5あ（挨拶・安全・後始末・集まり・遊び）」についても教職員間で共通理解を図りながら取り組む。

4. 今年度の成果と課題

○夢・志を育む学級運営のための実践研究事業 アンケート結果

①資質・能力ベースの授業づくり

・あなたは、授業がよく分かりますか

(目標値 90%以上)

・あなたは、自分の思いや考えを安心して言えますか

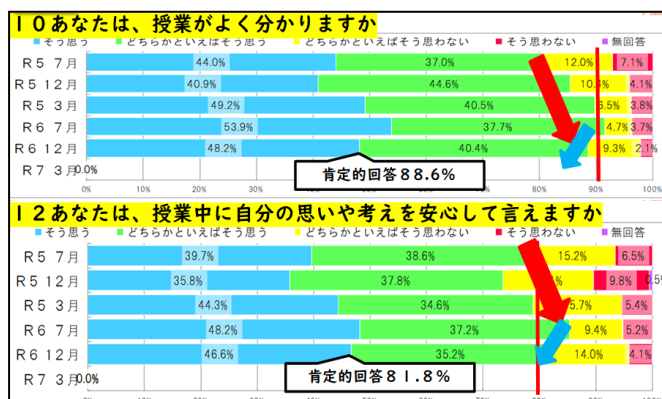
(目標値 80%以上)

②児童主体の学級・学校づくり

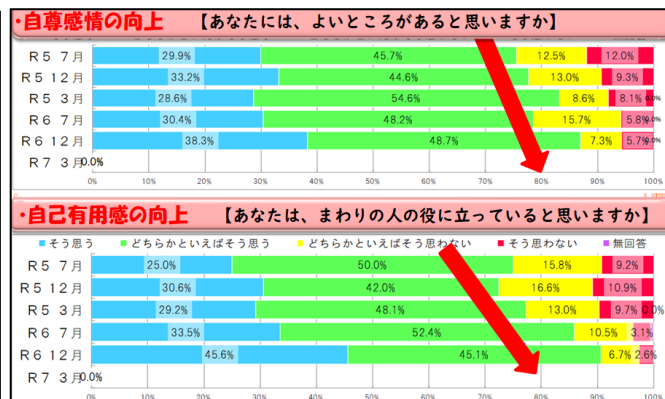
・あなたには、よいところがあると思いますか

・あなたは、まわりの人の役に立っていると

思いますか→少しでも実感できる児童を増やす



7月と2月とも目標値を超えているが、12月は前回を下回り、肯定的回答が減少している。学習面に課題が残る結果となった。



肯定的評価をした児童が少しずつ増加してきていることから、様々な取組を通して、自尊感情と自己有用感が向上してきた。

【児童の姿から見える○成果と●課題】

○自分の考えをもち、発表しようとする児童の姿が増えてきた。学級活動でも計画委員を中心に主体的に取り組む姿もたくさん見られる。

○「全校のために」「〇〇さんのために」と相手意識を大切にして任せることで、人のために役立つ喜びを味わう機会が増え、学級会での発言や普段の様子に変化が見られた。

●学級活動の話合いでは、相手意識が見られるが、日常生活ではまだ十分ではない。

●自分の意見を発表できる児童が多くなってきた反面、人のことを大切にして聴くことが十分にできていない。

●「新たな不登校者数」については2月現在5名となっている。